

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 5 日作成)

委員会名	ヒューマナイズングWG	主 査 名：宇治川正人
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会(環境心理生理小委員会)	委員長名：讃井純一郎
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2004 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	環境心理研究によって、既存あるいは計画中の建築空間や環境を、より居住者や使用者の目的や要求に沿った建築空間に近づける方法(ヒューマナイズング:人間化)が蓄積されてきた。しかし、設計計画の実務への適用はごく一部の組織や施設にとどまっており、本格的に普及しているとは言い難い。本 WG は、実際の計画設計で効果を発揮し、作業品質を確保するための標準的な工程、中間・最終アウトプットの形態や表示すべき情報について検討し、ガイドラインを作成することを目指す。	
委員構成 (委員名(所属))	宇治川正人(竹中工務店)、成田一郎(大成建設)、丸山 玄(大成建設)、武藤浩(竹中工務店)、山田哲也(清水建設)、W.F.E.Preiser(シンシナティ大学)、井上 誠(福山大学)、讃井純一郎(関東学院大学)、小島隆矢(建築研究所)、植木暁司(国土交通省)、小野久美子(国土技術政策総合研究所)	
設置 WG (WG 名:目的)		
2003 年度予算	円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	第1回 WG2003.6.4(6名)、第2回 WG2003.7.10(4名)、 第3回 WG2003.12.25(6名)、第4回 WG 2.4(8名)
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 「ヒューマナイズング WG 報告書」を作成 (本文)1.はじめに 2.ヒューマナイズングの方法 3.手法と事例紹介 4.業務の確立を目指して 5.まとめ (付録)1. Learning from our buildings 序文 2. POE の発展 3. プライザー教授講演会 講演録 4. 日本におけるグリーンディング事例 ・上記成果は、人間の要求を建築の設計や計画に反映させる資料としての意義を有する。 ・報告書は、電子ファイルで製作し、公開や配布を容易にする。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 当初の活動計画では、作業品質を確保するための標準的な工程や、中間・最終アウトプットの形態や表示すべき情報について検討し、ガイドラインを作成することを目的としていた。その後、プライザー委員から、米国における公共建築の評価に関する資料提供があり、その翻訳作業を加えた。2002 年 12 月に開催した「プライザー教授講演会」で上記の作業成果を公開し、報告書に収めた。建築業界の現状を考慮し、ガイドラインに代えて、ヒューマナイズングの原則を検討した。
その他評価すべき事項	